

学校支援を積極的に進めよう

～学校行事に積極的に参画し、学校・家庭・地域との連携を図ろう～

岡崎市立新香山中学校PTA

1 学区及び学校の概要

新香山中学校は、岡崎市最北端に位置し、豊田市に隣接している。周りには村積山をはじめとする緑豊かな自然に囲まれ、さらには徳川氏発祥にゆかりのある奥殿陣屋では、四季折々の花々が鑑賞でき、大勢の観光客で賑わっている。近年には、新東名高速道路が開通し、自然の豊かさと現代との調和のとれた地域である。本校は、昭和59年に開校し、現在502名の生徒が在籍しており、この自然豊かな環境の中で、元気よく楽しく活動している。また、全校をあげてササユリの保護活動に力を入れており、そして平成4年から行っている巴川でのカヌー一部活動も、本校の特色ある活動である。

2 研究のねらい

新型コロナウイルスが世界的に感染拡大し始めてから、早くも2年が経過し、この間、さまざまな学校行事や活動の中止、延期、縮小が余儀なくされ、生徒たちは非常に悔しい思いをしてきた。しかし昨今、世界的に規制緩和へ向けた動きがあるなか、本校も『コロナ禍からの復活1年目』としての重要な年と位置付け、PTAとしてもしっかりと学校・地域と連携し活動する事とした。

3 研究の仮説

PTA役員が、学校行事の企画・運営に関わり、その行事に保護者が積極的に参加することで、学校・家庭・地域との連携が図れ、さらには心身ともに健康な児童が増え、より充実した学校生活が送れるであろうと考える。

4 研究の方法

PTA役員・委員を中心として、4つの部会（生活指導部・文化部会、広報部会、整備部会、保健体育部会）を組織し、各種行事や活動を企画・運営していく。

5 研究の実践

（1）環境に対する意識向上だけでなく、地域との連携を図る親子リサイクル活動

整備部会が中心となり、年に3回（6月・9月・1月）親子リサイクル活動を実施している。本活動の目的は、得られた収益金を生徒の活動に使うだけでなく、本校は岡崎市初のユネスコスクール登録から環境学習にも力を入れており、生徒の地域貢献や資源利用・リサイクル等を学ぶ場として、本活動を推進している。また一部地域では高齢化が進み、頻繁にリサイクル処分ができないことから、この



親子リサイクル活動

回収活動が地域住民より大変感謝され、非常に有意義な活動となっている。

（２） 保護者と連携した学校美化活動

今年初めての試みとして、有志で結成された『おやじの会』と連携し、中学校の樹木の剪定や除草を行った。８月盆明け、早朝からの作業であったが、まだまだ暑い時期であり、夏休み明けに生徒が気持ちよく登校できるよう心掛け作業した。近年コロナ禍により、地域の方々との交流も薄れる中で、今後も継続したい活動である。

（３） 学校行事の支援

ア 文化祭（１１月）

依然コロナ禍ではあるが、『コロナ禍からの復活１年目』を合言葉に各部会が各々活動を企画・運営し、生徒たちの笑顔、文化祭の盛り上げに貢献した。今年度は、コロナ禍により例年中止としていた、生徒への昼食（パン・焼きそば・ジュースなど）の予約販売を、生徒の要望に応え実施した。また生徒指導部・文化部による作品展示（マクラメ編みのキーホルダー。外部講師の講座により、希望者で製作した作品）、制服バザーも行い、大変盛況に文化祭を終えることができた。



P T A制服バザー

イ 体育大会（９月）

今年度は平日の開催となったため、保健体育部やP T A役員の参加に限りがあったが、体育大会も半日から終日開催となり、円滑に競技が進むよう対応した。主に男性役員は、駐車場や周辺道路の警備、女性役員は来賓者の受付を行った。生徒たちの大きな声援や、たくさんの笑顔が感じられた非常に良い大会であった。

ウ 長距離継走大会での豚汁提供（１２月計画中）

長距離走大会では、P T A役員や各部会によるコース監視だけでなく例年、生徒に手作りの『豚汁』を提供していたが、昨今のコロナ禍により中止となっていた。しかし生徒や保護者からの強い要望により、今年度は実施する方向で計画を進めている。大会は１２／３の土曜日開催だが、役員・部会担当者が総出となり、前日より鍋や具材の準備をする計画である。



手作り豚汁提供（令和元年度）

６ 研究の考察

各活動を通して、学校や生徒だけでなく、地域の方、保護者、役員同士の交流に繋がり、非常に有意義な活動であった。また保護者や生徒の意見・要望を取り入れた活動ができた。

７ 成果と今後の課題

ねらいとしていた学校・家庭・地域と連携し、充実した活動が展開できたが、マンネリ化の傾向も感じられ、生徒や地域の活性化に繋がる新たな施策を取り入れる必要があると思われる。